宿泊施設1000軒を支援へ

観光庁補正予算案　外客対応に10億円

政府が12月18日に閣議決定した補正予算案に、観光庁予算として56億円が計上された。このうち訪日外国人受け入れ環境整備緊急対策として、旅館を中心とする宿泊施設のインバウンド対応の支援に10億円が盛り込まれた。支援対象となる宿泊施設は、全国で千施設程度が見込まれている。

宿泊施設のインバウンド対応支援では、運輸局などを中心に各地方に設置されている「訪日外国人2千万人の受け入れに向けた地方ブロック連絡会」で対象地域を選定。おおむね都道府県ごとに2地域、全国で約100地域を選び、1地域当たり10施設程度を支援する。

選定された地域では、事業者で構成する協議会で「宿泊施設稼働率向上計画」を策定。各宿泊施設が計画に基づいて実施する事業の費用の半額を支援していく。1施設当たりの支援費は100万円程度と見込まれている。

支援対象となる事業は、インバウンドの対応に関する内容であれば特に指定しない。想定される事業例には、Wi—Fi環境の整備、客室やトイレの洋室化、国際テレビ放送設備の整備、館内表示やウェブサイトの多言語化などが挙がっている。

宿泊施設のインバウンド対応とともに、予算10億円の一部は、宿泊施設の空き室情報の提供に関する事業に充てる。訪日外国人の急増に伴い宿泊不足とされる状況の改善を目指す。主要駅などの観光案内所、宿泊業団体のウェブサイトなどでの取り組みを支援。情報の集約、提供の強化を促して宿泊施設のフル稼働につなげる。

補正予算案　観光庁分　単位：億円

訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業	10.2
○宿泊施設のインバウンド対応支援 ○空き室情報提供の強化	10.0
○バス路上混雑対策の実証実験など	0.2
地方創生のための観光地域づくり	4.0
○「食」と「農」の観光地域づくり	3.0
○東北地方へのインバウンド推進による観光復興事業	1.0
地方誘客のための緊急訪日プロモーション	41.8
合計	56.0

地方ＰＲに42億円　地域づくりも支援

補正予算案の観光庁分56億円には、訪日プロモーションや観光地域づくりなどに関する事業費も盛り込まれた。

外国人旅行者の地方への誘客に向けたプロモーションには41億8千万円。桜観光のシーズンである春の誘客に向けて広告宣伝を展開。訪日市場の多様化も念頭に、欧米豪などには地方の歴史、文化の魅力を紹介する。地方空港へのＬＣＣ（格安航空会社）などの就航に合わせた観光プロモーションも実施する。

観光地域づくりでは、広域観光周遊ルートと公募で選定した地域を支援する「食と農の観光地域づくり」事業に3億円。東北地方の観光復興では、インバウンド振興に向けたマーケティング調査や人材育成の支援などに1億円を計上した。

受け入れ環境整備緊急対策では、宿泊施設のインバウンド対応など宿泊関係のほかにも、交通に関わる問題の解決に2千万円を充てる。貸切バスの長時間にわたる路上駐車の解消、各種交通機関の乗り換えの利便性向上に関する実証実験を行う。

訪日外客1900万人を突破

12月19日に

イン、アウト超え45年ぶり

２０１５年の訪日外国人旅行者数が12月19日に累計１９００万人を突破した。石井啓一国土交通相が同22日の記者会見で明らかにした。過去最高を記録した14年の年間値１３４１万３千人から４割以上の伸び率を示した。

政府がビジット・ジャパン（訪日旅行促進）事業を開始した03年には６１３万８千人だったが、13年を経て3倍以上に増加した。

訪日外国人旅行者数が出国日本人数（15年1～11月は１４８７万２千人）を超えることも確実。インバウンドがアウトバウンドを上回るのは、大阪万博が開かれた１９７０年以来、45年ぶり。

東武鉄道と台湾鉄路

友好鉄道協定を締結

東武鉄道は12月18日、台湾鉄路管理局（台鉄）と友好鉄道協定を締結した。台湾の台鉄・台北駅では「友好鉄道協定締結式」が、台鉄・樹林駅と東武スカイツリーライン浅草駅では記念エンブレムを掲出した特急列車の出発式が行われた。

樹林駅で記念列車出発式のテープカットを行う東武鉄道の根津社長（中央右）と台鉄の周局長（中央左）

台北での締結式には東武鉄道の根津嘉澄社長や台鉄の周永暉管理局局長らが出席。あいさつで根津社長は「今後、さまざまな施策を実施し、当社沿線と台鉄沿線の相互誘客を図り、台湾、日本の交流人口の増加に寄与していきたい」と語った。

東武鉄道と台鉄は、両者の特急列車「日光詣スペーシア」「普悠馬（ぷゆま）」が描かれた台紙を使った「友好鉄道協定締結記念乗車券」も販売している。

クルーズ大使にオペラ歌手起用

外航客船協会

日本外航客船協会は、第3代クルーズアンバサダー（クルーズ振興大使）にオペラ歌手の幸田浩子さんを選んだ。

幸田さんは東京芸大卒。数々の国際コンクールで入賞し、２０００年には名門ウィーン・フォルクスオーパーと専属契約を結んでいる。メディアへの登場も多く、12年からはＢＳフジの音楽＆トーク番組「レシピ・アン」にＭＣとしてレギュラー出演している。

幸田さんには幅広い人脈を生かし、日本船籍によるクルーズの魅力をＰＲすることが期待されている。

---

37 私の視点

観光羅針盤

安田　彰

Be our guest！の年に

２０１６年は観光業界にとってどんな年になるのだろうか。足踏みする経済情勢はさておいて、戦争とテロのない世界平和が何よりも心待ちされる。紛争の只中にツーリズムは実現されないからだ。

しかし国連の現状や大国のエゴを見る限り、緊張は高まりこそすれ、その実現可能性はかなり低い。それどころかＥＵにしてもその存立すら危ぶまれる状況だ。人類が前世紀、歴史の反省から掲げてきた理念や理想は今世紀に入ってもいっこうに近づいては来ない。

他方、価値観や世界観の多岐・多様性（ダイバーシティー）がうたわれて久しい。だが現状は逆に排他主義と不寛容が横行している。宗教にしても国家・政体にしても自らのものが唯一絶対で、異なるものは許さない。宗教と政治の不寛容・絶対主義である。

文化や文明は民族の独自性を基盤に出来上がっている。そこに本来優劣はないはずであった。しかし豊かさと近代化の範を欧米に求めてきたため、さまざまな矛盾を呼び込む結果となった。昨年末のＣＯＰ21の紛糾はその好例だ。

先進国ＶＳ開発途上国、大国ＶＳ小国の責任と権利を巡って折り合いがつかず、最終共通認識は「地球の命運は全世界の国々にかかっている」という1点に過ぎなかった。

こうした行き詰まりを見ていると、その調停役として日本は最もふさわしいのではと思われてくる。もちろんまずは政治的リーダーシップや外交力であるが、同時に期待されるのは「急がば回れ」、民間外交としてのツーリズムではないか。

日本は一神教ではない。神仏混交、八百万の神を信仰する。自己主張よりは融和と協調を尊重する。客人に気を使い、寛容である。

「もったいない」は今や世界語となり、健康志向と循環型・持続可能型（サステイナブル）社会は日本が範（デファクト）となりつつある。無形遺産となった和食や和紙もこの範疇に入る。

「新・観光立国論」の著者Ｄ・アトキンソン氏は、日本ほど「気候・自然・文化・食」と4拍子そろった国は珍しいという。同時に「おもてなし」や「安心・安全」といった抽象的な言葉では外客誘致はできないともいう。しかし世界にはその誘致戦略以前の基盤すら担保できない国が少なくない。昨年45年ぶりにイン・アウトの旅行者数が逆転した。好むと好まざるとにかかわらずこの傾向は強まることだろう。

〝Ｂｅ　ｏｕｒ　ｇｕｅｓｔ！〟――「大歓迎です、どうぞご自由に」。今年も世界に向け、日本の魅力をそう発信したいものだ。

（亜細亜大学教授）

「恋人の聖地」「ふるさとウェディングコンクール」

ブライダル切り口に地方創生に取り組む

ブライダルファッションデザイナー　桂　由美さん

2016年新春特別インタビュー

（１面から続く）

日本で初めて「ブライダル」という言葉を使った桂さん。昨年は活動50周年を迎えた。２月16日には東京・有楽町の東京国際フォーラムで元宝塚トップスター真琴つばささんら宝塚ＯＧがゲスト出演するグランドコレクション「薔薇の饗宴2016」が開催される

魅力とは現代が失ったものがあるということ

——美しい佇まいを常に意識している旅館の女将たちに美意識の持ち方をアドバイスしてください。

「言葉遣い、話し方、物腰が重要です。まず旅館について最初に会う女将さんが館の象徴だと思います。最近現代的な女将さんもいらっしゃいますが、そうじゃない方がいい」

——先代の社長が「女将さんは歩く伝統文化だ」と言っていました。着物、言葉遣い、佇まい、もてなし方などすべての伝統文化を持っています。

「建物や食事と同じです。近代的に変えない方がいいと思う」

——私も残していきたいと思っています。時代が変わってきて、若い女将さんたちに啓蒙していくのも自社の仕事だと思っています。

「日本の伝統文化に詳しい外国人が、書いたり、言ったりしてくれる方が感じることがある。魅力とは現代が失ったものがあるということです。京都は環境、自然、人が昔の良さを失っていない。新しいものだけ追いかけても、独自性、日本の良さがなくなってしまいます」

——東日本大震災の被災地を訪れた訪日客が意外なところが印象に残ったという統計がありました。農家のおばあちゃんが作ったぞうりだとか、手作業で作った籠とかにすごく魅力を感じるらしいです。そういうものは残していきたいですね。

「分かります。ブライダルも和がブームになってきている。ホテルや式場の神前式ではなくて、明治神宮や日枝神社など神社で挙げる方が増えてきています」

パワーの源は責任感「妹の結婚式だと思ってやりなさい」

——思い出に残る旅はありますか。

「私は本当に仕事人間で、この50年の間に何百回と海外に出ていますが、すべて仕事です。ただ、1回だけ主人と新婚旅行みたいなことをやろうよとトルコに行きました。30年くらい前ですが、すごくおもしろかったですね。カッパドキアとかね。今はトルコは新婚旅行先として人気ですが、30年前はまだあまり日本人はいませんでした。国内はプライベートでもできるだけ恋人の聖地に行くようにしています。まだ3分の1くらいしか行けていませんが、4日間の夏休みは、なるべく恋人の聖地を回るようにしています。ただ夏は暑いから涼しいところが中心ですね（笑い）。長野、北海道、東北とかね。この間は妙高高原に行って、アパリゾートのギネスに認定された150万個のＬＥＤの見事なイルミネーションを見てきました。恋人の聖地になったということで鐘を設置されたのですが、鐘をならすと鐘のまわりのＬＥＤが光るんです。行列ができていて、順番が回ってこなかったカップルもいたようです。聖地を活かしてすごいことをやっていました」

——365日休みなく働いていらっしゃいますが、パワーの源はなんですか。

「好きなことは長続きします。もともとこの仕事に向いていたと思うし、お客さまの喜びが自分の喜びになります。スタッフにも『お金儲けだけだったら他の仕事をした方がいい』と言っています。我々はお客さまのお手伝いをするのが仕事ですが、お客さまにとっては一生に1度の晴れのフェスティバルですから失敗が許されない。ブライダルの仕事は『この次は』ということが言えない。普通の仕事の2倍くらい気を使います。例えば生花のブーケは当日まで見られません。花屋さんが会場に直接納品しますから。時間通り届かなかったら大変なことになる。担当者は当日休みでも、会場にちゃんと届いているか電話します。スタッフには『自分の妹の結婚式だと思ってやりなさい』と言っています。好きで好きで仕方がない仕事でお客さんに感謝されて、ブーケの確認も褒められたら、やっぱり電話しておいてよかったと思うでしょう」

——旅館のおもてなしと同じですね。「また来るよ」という言葉でがんばれる。

「だから疲れたと思ったことはありませんね。病気もケガもあまりしたことがありません。健康法を良く聞かれますが『責任感』と答えています。自分で会社を経営して、何十人もスタッフがいますから。病気になっていられないです。1週間も休めと言われたら、逆にガックリと疲れてしまうでしょう（笑い）」

——桂さんのお話を聞いて励みになりました。ありがとうございました。

昨年は琳派400年を記念して、尾形光琳らの作品にインスパイアされた京友禅のドレスを発表した。「アイデアはどこから」と聞く積田に対し、「いつでもアンテナを張り巡らせている」と答える桂さん

白樺リゾート池の平温泉
県下最大級のスパリゾート
「湯めぐりワールド」
ゆったりと寛げる男女別露天風呂
男女交代制で、両方のお風呂を楽しみいただけます
木曽ひのき露天風呂
自然石露天風呂
大露天風呂ゾーン
100畳の大露天風呂
陶器風呂
足湯
セラミック遠赤外線サウナ
大理石風呂ゾーン
大理石風呂
ご夕食は　豪華70種類以上の世界のバイキング!!
和・洋・中・エスニック
ライブキッチンで焼きたて！握りたて！揚げたて！
カニ・天ぷら
寿司・刺身
ステーキ
食べ放題！
白樺リゾート
池の平ホテル＆リゾーツ
お問合せ 総合予約センター
TEL(0266)68-2100
〒391-0392 長野県茅野市白樺湖
池の平ホテル
検索